

8. 抵抗性品種「みねはるか」と「ゆめまつり」のいもち病抑制効果

1. 背景とねらい

いもち病の防除には、育苗箱施用剤や本田散布剤が用いられていますが、耐性菌の発生、散布労力やコストの問題があります。一方で、抵抗性品種が開発されており、農薬を使用しなくても病害虫の多発を回避できる可能性があります。そこで、広島県における抵抗性品種のいもち病抑制効果と栽培特性を明らかにします。

2. 成果の内容

- 1) 抵抗性品種「みねはるか」は無防除で、「コシヒカリ」は慣行防除と無防除で栽培し、いもち病の発生と栽培特性を 2014 年に調査しました。その結果、「みねはるか」のいもち病発生は、無防除の「コシヒカリ」と比べて著しく少なく、また、慣行防除の「コシヒカリ」と同等、もしくはそれよりも少なくなります。(図 1)。
- 2) 「みねはるか」は、「コシヒカリ」と比べて短稈で倒伏に強く、多収で検査等級が優れますが、食味は僅かに劣ります(表 1)。
- 3) 抵抗性品種「ゆめまつり」と「ヒノヒカリ」は無防除で、「コシヒカリ」は慣行防除で栽培し、いもち病の発生と栽培特性を 2015 年に調査しました。その結果、「ゆめまつり」のいもち病は、無防除の「ヒノヒカリ」と比較して少なくなります(図 2)。
- 4) 「ゆめまつり」の収量は無防除の「ヒノヒカリ」と比べてやや低いものの、成熟期が 12 日早く、短稈で、検査等級が優れました。食味は良食味品種の「ヒノヒカリ」並みです(表 2)。
- 5) 以上のように、「みねはるか」と「ゆめまつり」は、いもち病に抵抗性を示し、県内のいもち病常発地において農薬を使用しなくても栽培できると考えられます。

3. 普及上の留意点

- 1) 「ゆめまつり」はウンカ類に対しても抵抗性です(成果 8 参照)。
- 2) 「みねはるか」と「ゆめまつり」は広島県の産地品種銘柄に未登録で、奨励品種ではありません。種子の入手は最寄りの JA に相談してください。

(生産環境研究部・栽培技術研究部)

4. 具体的データ

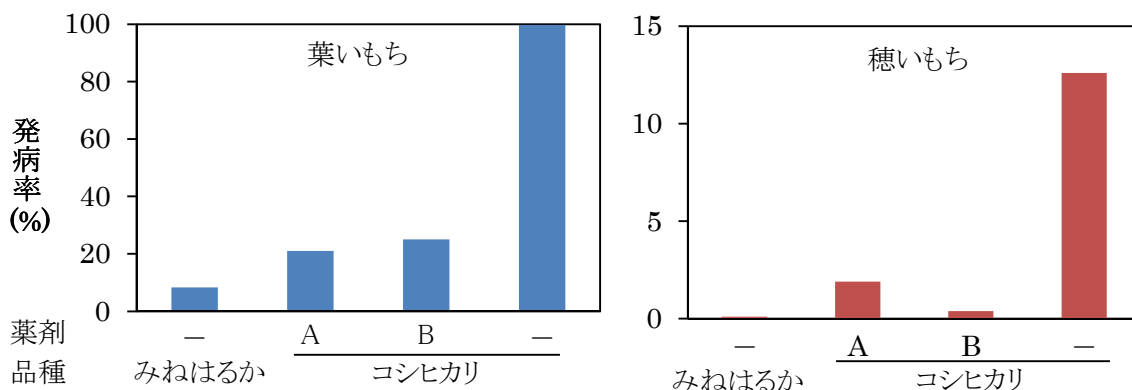


図1 「みねはるか」のいもち病発生程度（2014年，御調町）

1) A 剤はプロペナゾール・クロラントリニプロール剤を，B 剤はプロペナゾール・クロチアニジン剤をそれぞれ田植え時に育苗箱施用。

表1 「みねはるか」の生育，収量および品質（2014年，御調町）

品種	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度 (0~5)	精玄 米重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒 重 (g)	検査 等級	玄米 蛋白 (%)	食味 総合
みねはるか	9/17	77	341	0	50.7	131	23.4	1等下	8.6	-0.35
コシヒカリ	9/16	87	344	2	38.7	100	21.6	2等上	8.5	0

- 1) 5月14日田植え，10月8日収穫。
- 2) 食味官能評価は日本穀物検定協会に依頼。

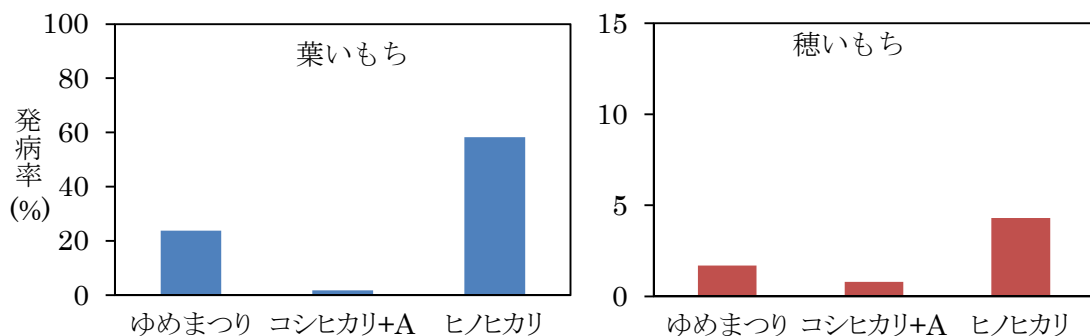


図2 「ゆめまつり」のいもち病発生程度（2015年，御調町）

1) A 剤は，田植え時にプロペナゾール・クロラントリニプロール剤を育苗箱施用。

表2 「ゆめまつり」の生育，収量および品質（2015年，御調町）

品種	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度 (0~5)	精玄 米重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒 重 (g)	検査 等級	玄米 蛋白 (%)	食味 総合
ゆめまつり	10/ 4	68	281	0	49.7	95	22.2	1等下	8.0	0.20
ヒノヒカリ	10/16	80	263	0	52.1	100	22.0	2等上	7.8	0

- 1) 5月13日田植え，10月14日収穫。
- 2) 食味官能評価は日本穀物検定協会に依頼。

本研究は，農林水産省委託プロジェクト(課題名:生物多様性を活用した安定的農業技術の開発)において実施しました。